

令和8年8月6日
第2回市民活動推進委員会
資料4

市民活動の推進について

～基金の充実を入り口とした成果発信の仕組みづくり～

本件の位置づけ

本件は、基金の充実を入り口としつつ、市民活動げんき基金補助事業を通じて、市民活動が生み出す成果や価値を把握し、発信することで、今後の市民活動の推進全般につなげる仕組みを考えるものです。

1. 基金の充実にに向けた背景と目的

背景

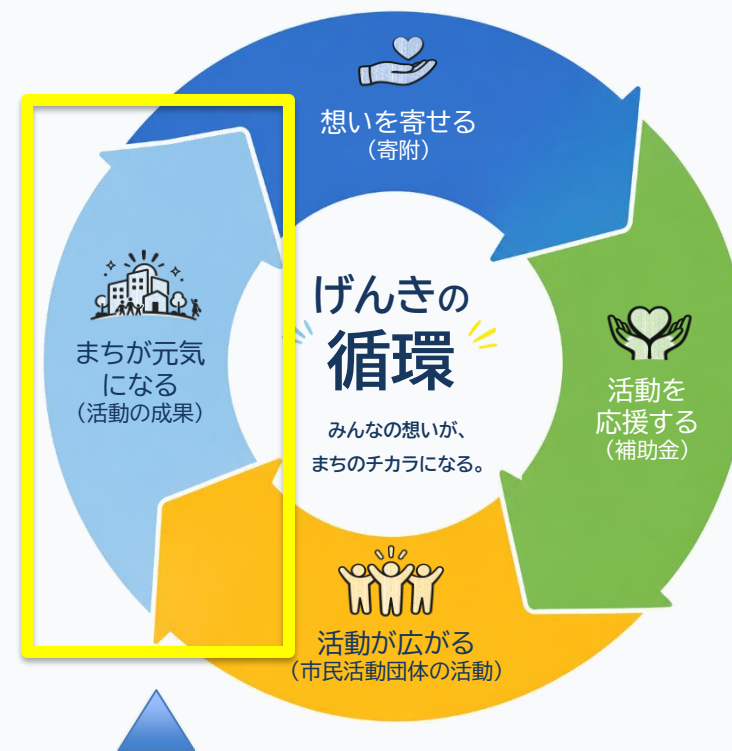
基金残高の減少を受け、ホームページを改善
(基金の説明、寄附方法の整理など寄附受入体制を整備)



主に、基金の仕組みや寄附方法をもってPRするだけでは、
共感を得ることが難しく、寄附行動につながりにくい



市民活動の魅力や寄附の意義を伝えるとともに、市民や地域にどのような
価値・変化が生まれたのかを「**成果**」として把握、整理し、「**見える化**」することで、共感を呼び、新たな寄附につなげる。



2. 令和7年度実施報告書における記載内容

実績報告書「事業の成果と今後の展開」から抜粋

- 子ども同士のつながりが深まり、「次回も参加したい」「次は全部売れる物を考えたい」といった継続意欲・主体性が生まれた。【成果】
- 空き家所有者の「気持ち」に寄り添う支援の重要性が見え、相談窓口としての認知向上や、専門家・団体との連携先の増加につながった。【成果】
- 体験や交流の機会を複数回設けた。SNS等を活用し情報発信を行った。【実施回数・結果】
- 今後は、既存イベントへの参加や関係団体との連携を進めながら、より多くの人に活動を知ってもらえるよう展開していきたい。【今後の展開】



実際の記載では、参加者に生まれた価値や変化などを確認できるものの、**実施回数や今後の事業展開が混在するケース**が見受けられる。

団体によって活動経験などに差があるため、**同じ様式と支援を一律に行うだけでは、成果を十分に引き出すことが難しい**のではないかと。

3. 現在の仕組み（【参考資料2】）

様式	項目・趣旨	参考様式・支援
事業計画書 (申請段階) ▼	・「成果」に関する独立欄はなく「目的や効果」に記載する構造 ・「今後の展望」欄があり、将来目指す成果や今後の展開などが混在しやすい	・ 記載例 ・ 事例集 ・ 制度説明会（初めての団体のみ） ・ 進め方説明会（初めての団体のみ）
中間報告シート (事業実施段階) ▼	・ 進捗確認、相談対応が中心 ・ 成果の確認や見直しにはつながりにくい ・ 下半期のサポートという性格が強い	・ 記載例
実績報告書 (事業終了段階)	・ 「事業の成果と今後の展開」欄により、ここで初めて具体的な成果を求める構造 ・ 団体ごとの経験差が出やすい	・ 記載例 ・ 事例集 ・ 実績報告書確認会（すべての団体）



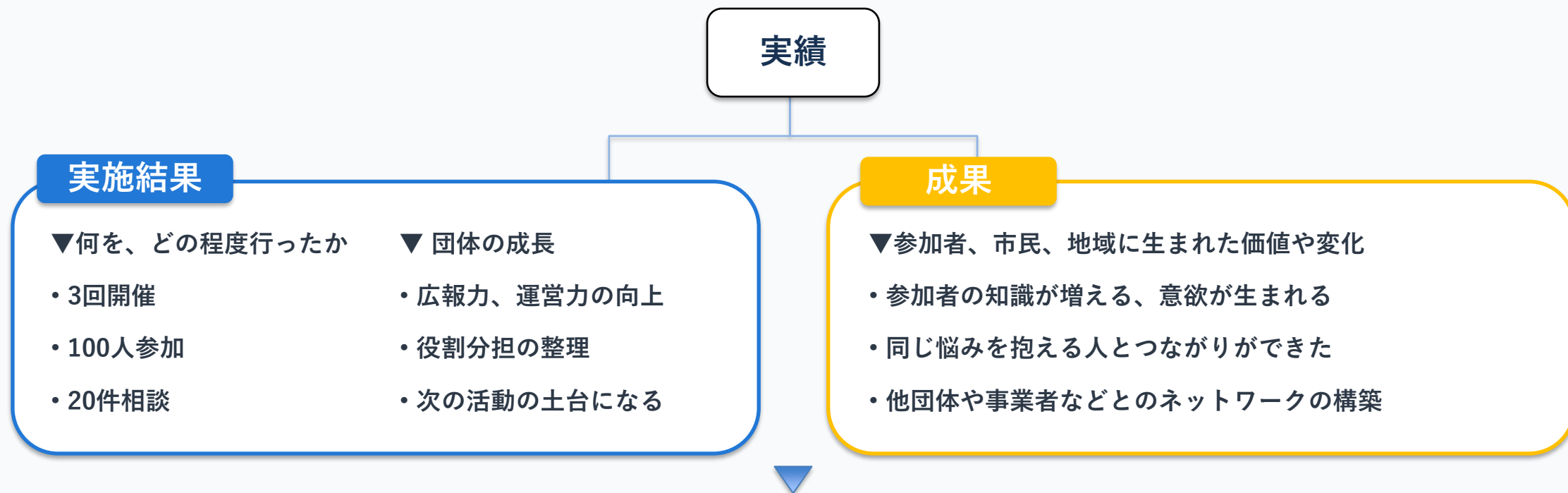
申請段階 → 事業実施段階 → 事業終了段階において、**成果を「検討・設定、確認・見直し、整理・振返り」**という流れになっているか。

記載例や事例集を提供しているものの、**実際に記載するうえで、参考となっているのか。**

4. 参考：神奈川県や他市の取組事例

	神奈川県	藤沢市	平塚市
事業名	かながわボランティア活動 推進基金21	ミライカナエル活動 サポート事業 【市民活動提案制度】	平塚市市民活動推進補助金
申請段階 (記載項目)	協働を希望する県の所属、県に期待する役割及び協働の 成果 、他の関係者との連携	そのミライを実現することで、 誰が喜ぶのか （この事業の受益対象者を記入）	期待される効果（活動・事業実施により、対象（受益者や地域）にどのような効果や 成果 を期待できるか）
事業終了段階 (記載項目)	実施事業による具体的な 成果	成果 目標に対する結果	得られた 成果 、効果

5. げんき基金における「実績」の整理



- 「実施結果」と「成果」を整理することで、成果を引き出しやすくなる。
- 成果（市民や地域に生まれた変化や価値）を「見える化」することで、共感呼び、寄附行動につなげる。
- 団体側の情報の整理・把握にもつながり、行政としても支援しやすくなる。

6. 現状のまとめ

様式の構造上、成果が抽象的になりやすい

- 申請段階において、事業の成果として、何を・どのように確認すれば良いかが明確になっていない。
- 事業計画書・中間報告シート・実績報告書が成果の視点で連動していない。
- 事業終了段階で初めて、成果を求められる様式となっている。また、項目が「事業の成果と今後の展開」となっており、実施結果・成果・今後の展開が混在する一因となっている。
- 団体によって活動経験に差があるものの、一律の様式や支援となっている。



市民や地域にどのような価値・変化が生まれたのかを「**成果**」として**把握・整理し「見える化」する仕組みがなく、市民や企業の共感を呼び、寄附行動につなげることが難しい。**